

平成30年度 第2回 津山市総合教育会議 議事録(要旨)

- 1 日 時 平成31年2月12日(火)午後1時30分～3時00分
- 2 場 所 市役所2階 第1委員会室
- 3 出席者 谷口市長、有本教育長、尾島委員、森委員、長江委員、光岡委員
- 4 欠席者 なし
- 5 同席者 明楽総合企画部長、絹田学校教育部長、小坂田生涯学習部長、森上学校教育部長次長、坂元生涯学習部企画調整官、影山学校教育課長、廣野教育総務課参事、梶並学校教育課指導主査、芦田教育総務課主査、平田みらいビジョン戦略室長、山崎みらいビジョン戦略室主幹
- 6 会議日程 (1)開 会
(2)市長挨拶
(3)自己紹介
(4)議 題
「津山市の学力向上のために」
岡山県政策アドバイザー 出島誠之 氏
平成30年度における教育施策の主な取組状況について
(5)その他
(6)閉 会

明楽総合企画部長

定刻となりましたので、ただいまから平成30年度津山市総合教育会議を開催させていただきます。

私は、本日の進行を務めます津山市総合企画部長の明楽でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、会議の開会にあたりまして、谷口市長からご挨拶をいただきたいと存じます。

谷口市長

平成30年度第2回の津山市総合教育会議を開催しましたところ、ご多忙の中、ご出席いただき誠にありがとうございます。

平素より皆様には、津山の次代を担う子ども達の健やかな成長のために、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

本日の会議には、学識有識者として、岡山県の政策アドバイザーである出島誠之様にお越しいただいています。

出島先生のご活躍は様々なところで伺いしており、本市の総合教育会議にご参加いただけますことに心より感謝申し上げます。

さて、第2期の津山市教育振興基本計画も2年目を迎え、各分野において様々な事業を展開されているところであります。

市民と教育機関、行政の連携と協力のもと、学力向上対策や学校施設の充実、生涯学習・スポーツ・文化施設の整備など、津山市の教育基本理念である「つなぐ力を育む」を柱に、将来の津山を見据え、効果的な施策に取り組んでいただいております。

本日は、「本市の学力向上のために」として、議論して参りたいと考えております。教育委員の皆様には、広い視野から忌憚のないご意見やご助言をいただき、また、出島先生からは、これまでの経験をもとに、ご意見やご助言いただきながら、本会議を意義あるものとしてまいりたいと考えておりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます、開会のご挨拶といたします。

明楽総合企画部長

ありがとうございました。

それでは、ここで、本日出席の皆様から自己紹介をお願いしたいと存じますが、教育長から時計回りでお願いします。

【自己紹介】

明樂総合企画部長

ありがとうございました。

次に、議題へ移らせていただきますが、その前に、本日、ご出席をいただいております、出島誠之さんのご紹介を、私からさせていただきます。

出島誠之さんは、2004年に東京大学法学部をご卒業後、アメリカに本社を置く大手コンサルティング会社、マッキンゼー・アンド・カンパニーにご入社されました。その後、香港科学技術大学にてMBAを取得、デロイトトーマツコンサルティング株式会社を経て、広島県で施策マネジメントの仕組み導入に携わる仕事をされ、現在は、政策アドバイザーとして、岡山県をはじめ、福山市、西宮市などでもご活躍をされています。

本日は、津山市の学力向上をテーマに、アドバイスをいただきたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、ここからの議事進行を津山市総合教育会議運営要綱の規定に基づき、谷口市長にお願いいたします。

谷口市長、よろしくお願いいたします。

谷口市長

失礼します。

先ほどご紹介がございましたが、出島様におかれましては、現在、岡山県の政策アドバイザーとして県教育委員会のお仕事もされておられ、津山市の小中学校へも何度かお越しになったことがあるということで、本日は、実際に学校を見て肌で感じた生の情報をもとにお話しいただけると、楽しみにしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、「津山市の学力向上のために」というテーマで、本市の小・中学校の現状と課題などについて、データを交えながらお話を頂戴したいと思います。

出島様、よろしくお願いいたします。

【 出島誠之（県政策アドバイザー） 「津山市の学力向上のために」 】

谷口市長

ありがとうございました。

それでは、次に（2）平成30年度における教育施策の主な取組状況について、学校教育部長、生涯学習部長よりご説明願います。

【 学校教育部長・生涯学習部長 説明 】

谷口市長

ありがとうございました。

これよりは、お集まりの皆さんからご意見をいただきたいと思います。

尾島委員

全国学力テストにおいて、都道府県によって苦手な問題に傾向があるということですが、なぜそういうことが起こるのでしょうか。

それから、平成30年では、平均正答率の全国平均との差が、0.9ポイントマイナスで31位ということ、認知的能力を図るうえでこの差をどう捉えたらいいのか難しいなと思っているんですが、このポイントの読み方についてどう考えたらいいでしょうか。

出島誠之（県政策アドバイザー）

まず、平均正答率の全国平均との差が0.9ポイントであるということについては、この差がどれくらいあったらどうですという説明はできませんが、この0.9という数字をさほど気にする必要はありませんし、順位にしても大きな差ではないと思います。ただし、40位以下に居続けることは、何かしら課題があるのではないかと認識していただく必要があると思います。

都道府県による特徴ですが、県の教育委員会の考え方に違いがあるのではないのでしょうか。

先ほども申し上げましたが、岡山県の小学生が一番苦手とした算数の問題が小数点の足し算だったという結果は、小学校では振り返り学習ができていないということが一つ言えるのではないかと思います。先生方も大変忙しい中で、その学年で教えるべき単元をこなしていくことが精一杯の状況になっているのかもしれませんが、小数点の掛け算を習う時に、まずは足し算の復習をしてからといった授業の工夫が不十分だったのではと推察できます。

岡山県教育委員会としては、学年をまたぐ課題への対応、振り返りなどを含めた授業の改善、教科間の横串を通した研修・研究をやらなければならないと考えます。

そうした教育課題への対応については、岡山大学教育学部が担っていかなければなりません。

森委員

出島先生のお話をお伺いし、どの問題を一番苦手に行っているのかをまずは把握し、その解決策を考えていくことが必要であると感じました。

そうした中で私は、子どもたちの学びを小学校から中学校へと切れないようにつな

いしていくことが重要と考えますが、そのあたりはどうお考えでしょうか。

出島誠之（県政策アドバイザー）

全国的に見ると家庭学習の時間は、小学生から中学生になると増える傾向にありますが、岡山県の場合は減少してしまっていて、津山市も同じであります。特に、中学生の4割以上が1時間以上の家庭学習ができていないという状況は大きな課題ではないでしょうか。

一つの要因として考えられるのが、小学校では家庭学習についても先生方が指導しておられるのですが、中学校になると手を離される。家庭学習に対しての指導がいきなりなくなることに、生徒たちの中には戸惑いがあるのではないのでしょうか。

中学生になると高校に向けての学びを指導されます。小学生から中学生になった早い段階で、中学校ではこういった学びが必要なんですよということを教えると同時に、自分の学びを客観的に見ることができる家庭学習のあり方を考える必要があるのではないのでしょうか。

長江委員

出島先生には、岡山の子どもたちがどの問題に躓いているのか、そして、そこにはどのような原因が潜んでいるのか、わかりやすく説明していただきました。

算数・数学の問題を例にご説明いただきましたが、国語について、何か課題などが分かっておられましたら教えていただけますでしょうか。

出島誠之（県政策アドバイザー）

総じて言えることは、語彙力が劣るということ。語彙力がないから問題が読み込めていない。例えば、「変域」、「根拠」という言葉を知らない。

漢字の指導では、学びながらその意味を教えることが大切であります。すでに小学1年生の段階で語彙力に差が見られるようになっていきます。今後は、この語彙力が大きな課題ではないかと思えます。

漢字ドリルも必要かもしれませんが、国語の勉強を単なる作業にさせないことが重要だと思います。

光岡委員

学力テストの結果を分析し、弱点を克服していくというのはわかりやすく大変興味深くお話を聞かせていただきました。

学校ごとにも様々な特徴があるのではないかと思います。本市の全ての学校について、分析をされていたりするのでしょうか。

出島誠之（県政策アドバイザー）

津山市の学校にも訪問させていただく機会がありますが、それぞれの学校のデータをお見せして説明しています。そうすることで、先生方も自分事として受け止めていただいていると感じています。学校特有の課題なのか、県全体のことなのかを踏まえて説明させていただいております。

光岡委員

本日の先生のお話をPTAなどで説明できればいいなと思いました。家庭学習の問題など、保護者と一緒に考えていくことが大切だと思っています。

出島誠之（県政策アドバイザー）

学力テストの点数だけ上げればいいのかということになってもいけないし、そういった点を踏まえて保護者と学校と一緒に考えていければよいのではないのでしょうか。

学校と保護者が問題を共有し、目標を揃えていく必要があります。総論の話ばかりではなく、個別具体の話をしていかなければならないと思います。

尾島委員

選択問題なのに無回答の生徒がいます。なぜこうしたことが起こるのか、私は津山市の先生が決して劣っているとは思いませんし、先生の能力ではなく、生徒の頑張る気持ちを育むことが必要ではないかと思っています。

先ほど話題となりました家庭学習についても、小学生のときはできているのに中学生になるとそういう気持ちが薄れているような気がします。自己肯定感が非常に低い中学校もあります。小学校で頑張っって習慣づけ、中学校でそれを継続していけるような生徒の気持ちを育むには何が必要でしょうか。

出島誠之（県政策アドバイザー）

学ぶことの意味を教える。先生自身がそういった意識を持って教えなければならぬし、親もそういう思いを持つ必要があります。

中学生になって、部活動などの集団活動の場では、どんどん伸びていくのですが、授業によって学力は伸びていかないということがあります。

授業の中で学ぶことが楽しいと思えるように生徒たちのモチベーションを高めていかなければなりませんし、そのためには、先生方が自ら学びの姿を示すことも大切だと思います。

谷口市長

予定しておりました時間がそろそろまいったようでございます。

本日は、出島先生より貴重なお話を伺うことができ、非常にたくさんのヒント、方向性を示唆していただけたと感じております。また学ばしていただきたいと思いますので、今後ご指導よろしくお願ひいたします。

ありがとうございました。

本日の議題は以上でございます。ここで事務局にお返しします。

明楽総合企画部長

ありがとうございました。

それでは、「その他」でございますが、皆様から何かございますか。

(なし)

明楽総合企画部長

以上をもちまして、平成30年度第2回津山市総合教育会議を閉会いたします。

閉会にあたり、有本教育長からご挨拶をお願いいたします。

【有本教育長 閉会挨拶】